

出資団体の経営状況一覧(令和5年度決算)

(単位:千円、%)
※令和5年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団 体 名	指 標	4年度決算	5 年 度 決 算		5年度決算概要
					対前年度増減(率)	
1	(公財)札幌国際プラザ	経常収益	400,202	396,475	▲ 3,727 (▲0.9)	<p>【経常収益】 令和5年度より新たな指定管理期間開始に伴う管理料の増などがあったが、令和4年度末の光熱水費対策費の皆減やコンベンション関連助成金の交付額の減少が主な要因。</p> <p>【経常費用】 ドイツ・ミュンヘン市との姉妹都市交流事業終了による旅費交通費の減やコンベンション関連助成金の交付額の減少の減が主な減少要因。</p> <p>【固定資産】 OA機器のリース契約終了と再リース契約開始に伴うリース債務の減とコンベンション関連助成金の未払額の減が主な減少の要因。</p>
		当期経常増減額	▲ 2,977	4,211	7,188 (241.5)	
		当期正味財産増減額	▲ 3,023	4,165	7,188 (237.8)	
2	(一財)札幌市職員福利厚生会	経常収益	513,803	535,236	21,433 (4.2)	<p>【経常収益】 経常収益の増加は、会費徴収率改定により受取会費が増収となったこと、施設管理者から請求される食堂・売店施設の庁舎使用料を委託事業者から徴収する収入について、令和5年度より減免措置が解除されたことが増収の要因となっている。</p> <p>【経常費用】 経常費用では、新型コロナウイルス感染症が5類化されたことにより各事業への申請件数が回復してきたこと、各事業への申請対象が例年より多かったこと、庁舎使用料の減免措置が解除されたことなどによる支出が費用の増加要因となっている。</p>
		当期経常増減額	564	12,413	11,849 (2,100.9)	
		当期正味財産増減額	▲ 2,764	7,648	10,412 (376.7)	
3	札幌総合情報センター(株)	売上高	2,812,445	3,044,531	232,086 (8.3)	<p>【売上高】 当期の売上高は、札幌市デジタル環境整備PMO・全体統括支援業務の受託の増加のほか、Google Workspace導入に関する調査・検証業務やメールウイルス対策システム再構築業務といった新規業務の受託の増加などが主因で増加した。</p> <p>【営業費用】 受託額の増加に伴う委託費の増加に加えて、業務増に対応するための体制強化に伴う人件費の増加、消耗品費の増加など業務環境改善に積極的に取り組んだことで増加した。</p> <p>【借入金残高】 借入金は札幌市基幹系情報システム開発において発生したものだが、開発は既に終了しており、本市が支払うソフトウェア利用料から借入金を返済したことによって前年度よりも減少した。</p>
		営業利益	84,375	93,853	9,478 (11.2)	
		当期純利益	59,015	58,032	▲ 983 (▲1.7)	

NO.	団 体 名	指 標	4年度決算	5 年 度 決 算		5年度決算概要
					対前年度増減(率)	
4	札幌丘珠空港ビル(株)	売上高	200,068	255,814	55,746 (27.9)	【売上高】 令和5年度は新規路線の就航などにより乗降客数が43万人を超えたところであり、それに伴い売店売上が増加したことに加え、入居者の家賃等の見直しにより、売上高は対前年度比27.9%増となった。
		営業利益	15,008	9,767	▲ 5,241 (▲34.9)	【営業費用・営業利益】 営業費用は、可能な限り経費節減に努めたが、社員及び直営売店スタッフの増員による人件費の増、売店の消耗品やキャッシュレス手数料、空港ターミナルビルの現況調査などの支出増により、対前年度比14.9%増の164,627千円となり、営業利益は前年度より5,241千円少ない9,767千円となった。
		当期純利益	11,176	6,404	▲ 4,772 (▲42.7)	【営業外利益・当期純利益】 営業外収益として、口蹄疫まん延予防に伴う靴底消毒対応のための委託料の受け入れなどにより、経常利益は11,075千円となり、純利益は前年度より4,772千円少ない6,404千円となった。
5	(公財)パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会	経常収益	453,803	443,858	▲ 9,945 (▲2.2)	【経常収益】 国から市への補助金が前年度より減少したことに伴い、受取地方公共団体負担金が減額となったことによるもの。
		当期経常増減額	35,249	▲ 1,748	▲ 36,997 (▲105.0)	【経常費用】 新型コロナウイルス感染症の影響軽減及び5類移行により、事業規模を回復させたことによるもの。
		当期正味財産増減額	35,229	▲ 1,769	▲ 36,998 (▲105.0)	
6	(公財)札幌市芸術文化財団	経常収益	3,900,549	3,745,794	▲ 154,755 (▲4.0)	【経常収益】 経常収益は前年度比1億5,475万円余の減少となった。受取指定管理費は、市民交流プラザを除く5施設において、令和5年度より新たな指定管理期間となったことによる指定管理費用の改定、昨年度から引き続き受けた札幌市からの光熱費補填が減少したことが要因。併せて、利用料金収益は教育文化会館の休館により1億円程度の減少を見込んでいたが、各施設利用増となり4,307万円余の減少、また主催公演も集客が好調だったことから、受講料、入場料収益を合わせて、3,005万円余の増加となった。
		当期経常増減額	76,504	43,897	▲ 32,607 (▲42.6)	【経常費用】 経常費用は前年度比1億2,214万円余の減少となった。教育文化会館の休館により全体的に費用が減少となったが、依然として光熱費の高騰や人件費上昇に伴う委託費用増加の影響も受けており、費用の減少幅が抑えられる結果となった。
		当期正味財産増減額	68,077	35,993	▲ 32,084 (▲47.1)	【正味財産】 上記の結果、正味財産は、3,599万円余の増加となった。いわゆる「剰余金」であるが、「公益のために集めた財産は公益目的事業に充てる」という公益法人制度の原則に則り、令和6年度予算及び翌年度以降の予算へ充当を行う。

NO.	団 体 名	指 標	4年度決算	5 年 度 決 算		5年度決算概要
					対前年度増減(率)	
7	(一財)札幌市スポーツ協会	経常収益	4,256,330	4,406,900	150,570 (3.5)	<p>【経常収益・経常費用・当期経常増減額】</p> <p>令和5年度の経常収益については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、施設利用や各種事業が通常に戻りつつある中、新たに厚別公園競技場が管理施設に加わったほか、受講料の値上げを行ったことから、利用料収益や受講料収益が前年度に比べ大きく増加し、経常収益全体でも前年度比150,570千円の増加となった。また経常費用は、清掃・警備などの委託契約の更新に伴い経費が大幅に増加し、前年度比134,132千円の増加となり、当期正味財産増減額は15,099千円のマイナス（前年度から16,438千円の縮小）となった。</p> <p>【資産・流動負債】</p> <p>資産は、流動資産が前年度比76,726千円減少しているが、主な要因としては電気・ガスの光熱費に係る補填や法人税還付に係る未収金が大きく減少したためである。負債は流動負債の退職金に係る未払金や未払消費税などが65,939千円減少した。</p> <p>【正味財産】</p> <p>正味財産は、負債の減少よりも資産の減少の方が大きかったため28,100千円の減少となった。</p>
		当期経常増減額	▲ 31,017	▲ 14,579	16,438 (53.0)	
		当期正味財産増減額	▲ 31,537	▲ 15,099	16,438 (52.1)	
8	(株)札幌ドーム	売上高	2,976,344	1,271,771	▲ 1,704,573 (▲57.3)	<p>【売上高】</p> <p>北海道日本ハムファイターズ公式戦の開催が無くなったことからプロスポーツイベント利用日数が減少し、コンサートやコンベンション、アマチュアスポーツなどの利用日数が増加したが、貸館事業、商業事業および駐車場事業では大幅な減収となった。観光事業は前事業年度からは利用者数は増加したが、単価の高いドームツアーの営業日数が減少、チケット事業は取り扱い案件の減少、広告事業は広告枠の販売減少などにより減収となった。</p> <p>【営業利益・当期純利益】</p> <p>営業損失は6億7200万円（前期比7億4200万円減）、経常損失は5億6000万円（前期比7億5400万円減）、当期純損失は6億5100万円（前期比7億7100万円減）と大幅な減収減益となった。</p> <p>【純資産・借入金残高】</p> <p>今年度の減益分は内部留保の取り崩しによって賄っており、借り入れはない。</p>
		営業利益	70,375	▲ 672,517	▲ 742,892 (▲1,055.6)	
		当期純利益	120,496	▲ 651,153	▲ 771,649 (▲640.4)	
9	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会	経常収益	7,871,971	7,715,012	▲ 156,959 (▲2.0)	<p>【経常収益】</p> <p>156,959千円の減少は、主に児童会館事業の職員配置計画に基づく減額改定に伴う指定管理事業収益の減少、また、こども劇場事業において前年度より助成金採択額が下回ったことに加え、エルプラザ事業にて複数年度にわたる助成事業が終了したことに伴う受取補助金等の減少が要因である。</p> <p>【人件費】</p> <p>職員給与のベースアップ及び退職金支給職位の拡大等の給与改定に伴い、人件費が66,532千円増加した。</p> <p>【固定資産】</p> <p>人件費にあるとおり、退職金支給職位の拡大等に伴い、退職給付引当資産が増加したとともに、業務の効率化及び省力化等を目的とした業務のシステム化に伴いソフトウェア資産を取得したことにより合計86,941千円増加した。</p>
		当期経常増減額	166,249	▲ 7,928	▲ 174,177 (▲104.8)	
		当期正味財産増減額	170,005	▲ 23,250	▲ 193,255 (▲113.7)	

NO.	団 体 名	指 標	4年度決算	5 年 度 決 算		5年度決算概要
				対前年度増減(率)		
10	(公財)札幌市中小企業共済センター	経常収益	6,050,318	6,045,300	▲ 5,018 (▲0.1)	<p>【経常収益】 期末会員数が前年度より1,160名純増したことにより、受取福利会費は7,766千円の増収となった。退職積立金の運用委託生命保険会社各社の決算の結果、特定資産の運用益は、前年より5,306千円減の455,278千円となった。また、受入退職掛金は6,723千円の減収となった。これらにより、経常収益の合計は、前年度より5,018千円減の6,045,300千円となった。</p> <p>【経常費用】 経常費用減少の主な要因は、物価高騰等の社会的情勢や、雪量不足等の天候の影響もあり、福利共済事業の利用者数が48,521人減となったことから、支払利用助成金が20,818千円減、また、システム開発のコンサル費用が資産計上となり、委託費が16,833千円減となったためである。これらにより、経常費用の合計は前年度より48,023千円減の6,038,501千円となった。</p>
		当期経常増減額	▲ 36,206	6,799	43,005 (118.8)	
		当期正味財産増減額	▲ 36,286	6,799	43,085 (118.7)	
11	(一財)さっぽろ産業振興財団	経常収益	918,090	1,060,484	142,394 (15.5)	<p>【経常収益・経常費用】 前年度比で経常収益及び経常費用は増加しているが、市の肉付補正により主に補助金事業が拡大したことによるもので、損益への大きな影響はなく、経常増減額は前年度並みの着地となった。予算規模の増に伴い人件費は増加したが、管理費は前年度並みに抑えており、効率的な経営に努めている。</p> <p>【当期正味財産増減額・固定資産・正味財産】 財務面では、エレクトロニクスセンターのウェットラボを札幌市に寄付したこと、及びソフトウェア資産の償却が完了したことにより、固定資産が縮小。これにより正味財産も概ね同規模での圧縮となり、当期経常増減額が黒字となったにもかかわらず、正味財産は前年度比で約80百万円の縮小となった。なお、ウェットラボの寄付は、札幌市と過去に締結した協定に基づくものであり、ウェットラボを利用した事業（技術開発室支援事業）は引き続き当財団にて実施することから、収支面での影響は生じない。</p>
		当期経常増減額	14,885	13,540	▲ 1,345 (▲9.0)	
		当期正味財産増減額	12,938	8,763	▲ 4,175 (▲32.3)	
12	(株)札幌都市開発公社	売上高	1,985,917	2,034,863	48,946 (2.5)	<p>【売上高】 売上高は、賃貸料収入が前年比2.7%増、コロナ禍収束による人流回復で駐車場収入も同様に3.8%増となり、売上高全体で2.5%の増収となった。</p> <p>【営業費用】 費用面は、前年に続き道路占用料の増額があったものの、政府の補助により光熱費負担の減少が大きく、営業費用で前年比5.3%減となり、当期純利益は前年比88百万円増と増収増益を確保した。</p>
		営業利益	130,961	259,708	128,747 (98.3)	
		当期純利益	113,172	200,067	86,895 (76.8)	

NO.	団 体 名	指 標	4年度決算	5 年 度 決 算		5年度決算概要
				対前年度増減(率)		
13	(株)札幌花き地方卸売市場	売上高	126,393	125,799	▲ 594 (▲0.5)	<p>【営業費用】 令和5年度は、委託業務の執行抑制や優先順位を踏まえた修繕費の執行などにより経費の節減に努めたことにより販売費および一般管理費が減少となった。</p> <p>【営業利益】 令和5年度は、営業費用が減少したことにより営業利益が増となった。</p> <p>【流動資産・流動負債】 令和5年度3月分精算代金の一部が年度をまたぐ支払となったため、精算用普通預金(流動資産)が増加し、対応する精算代金預り金(流動負債)も増加したことにより流動資産および流動負債が増となった</p>
		営業利益	2,091	13,277	11,186 (535.0)	
		当期純利益	2,844	12,277	9,433 (331.7)	
14	(一財)札幌産業流通振興協会	経常収益	195,630	227,043	31,413 (16.1)	<p>【経常収益】 催事件数は令和4年度の100件より15件増え、年間で115件となり新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にあり、「展示場事業収益」は令和4年度と比較して増加。また、会議室貸し出しなどの「施設賃貸事業収益」についても、使用率の増加に伴い増加となった。</p> <p>【経常費用】 令和5年度は、職員採用による給料手当の増、主催事業の再開による主催者負担金の増、委託費の増により、経常費用は増加となった。</p> <p>【当期正味財産増減額】 令和5年度は、令和4年度と比較して経常費用は1,358万円増になったものの経常収益が3,141万円増となったことから、当期経常増減額は1,783万円増となった。</p>
		当期経常増減額	▲ 63,424	▲ 45,587	17,837 (28.1)	
		当期正味財産増減額	▲ 63,424	▲ 45,587	17,837 (28.1)	
15	(一財)札幌勤労者職業福祉センター	経常収益	941,356	699,612	▲ 241,744 (▲25.7)	<p>【経常収益】 新型コロナウイルス感染症収束に伴う需要増や、同感染症対策に関する雇用調整助成金等の受給減、熱源設備や空調設備等の改修に伴う補助金の受給減等により、経常収益は総じて前年比241,744千円の収入減となった。</p> <p>【当期正味財産増減額】 当期正味財産増減額について、前年比19,003千円の減であったものの、新型コロナウイルス感染症収束に伴う需要増や、経費節減等に取り組んだ結果、28,020千円の黒字を確保した。</p> <p>【借入金残高】 経常収益は減になったものの、新型コロナウイルス感染症収束に伴う需要増や、黒字の当期正味財産増減額を確保できる見通しがあったことから、借入金の一部である12,900千円の繰上償還を行い、着実に残高を減少させることができた。</p>
		当期経常増減額	320,261	38,571	▲ 281,690 (▲88.0)	
		当期正味財産増減額	47,023	28,020	▲ 19,003 (▲40.4)	

NO.	団 体 名	指 標	4年度決算	5 年 度 決 算		5年度決算概要
					対前年度増減(率)	
16	(株)札幌振興公社	売上高	2,780,836	3,166,904	386,068 (13.9)	<p>【売上高】 コロナ5類への移行に伴い、観光事業を中心に国内及びインバウンド需要が回復したことに加え、新規事業として北8西1再開発事業及びテレビ塔レストラン「ザガーデン」のオープンにより、前年と比較し売上が3億8,600万円増収する結果となった。</p> <p>【流動負債】 北8西1再開発事業に係るつなぎ資金手形借入(420百万円)の長期借入への振り替え及び社債返済に伴う手形借入(400百万円)の長期借入への振り替えにより短期借入金が減少した。</p> <p>【固定負債】 上記同様の要因により長期借入金が増加した。</p>
		営業利益	15,042	107,430	92,388 (614.2)	
		当期純利益	32,449	62,485	30,036 (92.6)	
17	(株)札幌リゾート開発公社	売上高	1,289,175	1,519,736	230,561 (17.9)	<p>【売上高】 札幌国際スキー場は、札幌市内他スキー場のオープンが遅れたことにより修学旅行の振替が発生したことで修学旅行の入込が増加した。また、新型コロナウイルス感染症が収束したことで外国人観光客の利用が増加し、それに伴いレンタル需要が増したことが売上に大きく貢献をした。</p> <p>加えて、ていねプールは期間中の天候が良好であったこと、平均気温が30℃を超えたことで来場者が昨年の53,920人から95,251人と大幅に増加したことも大きな要因として挙げられる。</p> <p>なお、売上高の増加に伴い、販売費・管理費・人件費も増加した。</p> <p>【営業利益・当期純利益】 売上が好調であったことから、営業利益は199,756千円(前年度136,737千円)と増加した。純利益も199,997千円(前年度146,180千円)と前年に引き続き好調な状況である。</p> <p>【資産・負債・借入金残高】 資産の増加は現預金が増加した。負債は借入金返済を滞りなく行った結果減少した。</p>
		営業利益	136,737	199,756	63,019 (46.1)	
		当期純利益	146,180	199,997	53,817 (36.8)	
18	(一財)札幌市環境事業公社	経常収益	7,550,261	7,596,615	46,354 (0.6)	<p>【経常収益・経常費用・当期経常増減額・当期正味財産増減額】 経常収益については、事業系ごみ収集運搬事業におけるごみ収集量増等の要因により、前年比46百万円余増加した。一方、経常費用については、事業系ごみ収集運搬事業のシステム関連機器等の更新による消耗什器備品費の増加や、ごみ収集量増に起因する処分料の増加等により、前年比119百万円余増加した。</p> <p>以上の結果、当期経常増減額は、前年比73百万円余減の212百万円余、これに当期経常外増減額及び法人税等を差し引きした当期正味財産額は、147百万円余となった。</p> <p>【資産】 流動資産は、固定資産が一部資産の除却や減価償却費計上等により、前年比78百万円余減少したものの、当期経常増減額が212百万円余と良好な決算だったこと等により、前年比213百万円余増加し、資産も134百万円余増加した。</p> <p>【負債】 流動負債は、未払法人税等の減少等に起因し、前年比20百万円余減少し、固定負債は、退職給付引当金の増加等に起因し、前年比8百万円余増加した。これにより、負債は12百万円余の減少となった。</p>
		当期経常増減額	285,778	212,367	▲73,411 (▲25.7)	
		当期正味財産増減額	189,831	147,176	▲42,655 (▲22.5)	

NO.	団 体 名	指 標	4年度決算	5 年 度 決 算		5年度決算概要
					対前年度増減(率)	
19	(株)札幌エネルギー供給公社	売上高	782,644	801,470	18,826 (2.4)	<p>【当期純利益】 特別利益としてJRTTより西2丁目線導管移設工事費用に関する補償金217百万円を受けたことから、当期純利益は前期比152.2%増の116百万円となった。</p> <p>【資産】 流動資産は36百万円減少したが、固定資産は受変電設備更新工事、さつきた8・1熱供給導管工事及び西2丁目線導管移設工事などにより457百万円増加したことから、資産は前期比15.5%増の3,132百万円となった。</p> <p>【負債】 流動負債は未払法人税等により増加、固定負債は設備投資に伴う長期借入により増加したことによるもので、負債は前期比45.5%増の972百万円となった。</p>
		営業利益	▲ 27,899	▲ 33,806	▲ 5,907 (▲21.2)	
		当期純利益	46,068	116,164	70,096 (152.2)	
20	(株)北海道熱供給公社	売上高	6,294,640	5,926,658	▲ 367,982 (▲5.8)	<p>【売上高】 ガス平均原料価格の変動による都心地域燃料調整単価への影響や電気・ガス価格激変緩和対策事業による費用削減分のお客様への還元等により熱供給事業営業収益は前期比508,148千円(10.1%)減少の4,480,202千円、電力事業や建設事業を含む熱供給事業外営業収益は燃料費調整制度未導入であった需要家へ同制度を導入したことにより前期比140,166千円(10.7%)増加の1,446,455千円となり、営業収益の合計は、前期比367,982千円(5.8%)減少の5,926,658千円となった。</p> <p>【営業費用】 ガス平均原料価格の低下や電気・ガス価格激変緩和対策事業の影響により燃料費が大きく減少したが、中央エネルギーセンター建物に係るアスベスト除去に備えた資産除去債務の計上による減価償却費の増加により、営業費用合計は前期比227,257千円(3.6%)減少の5,945,253千円となった。</p> <p>【資産・負債】 資産：主に供給開始前需要家への供給導管を建設仮勘定で計上したことで増加 負債：中央エネルギーセンター建物に係るアスベスト除去費用を資産除去債務に計上したことで増加</p>
		営業利益	122,130	▲ 18,595	▲ 140,725 (▲115.2)	
		当期純利益	143,933	▲ 4,730	▲ 148,663 (▲103.3)	
21	(公財)札幌市公園緑化協会	経常収益	1,888,148	1,837,756	▲ 50,392 (▲2.7)	<p>【経常収益】 収益の大部分を占める「指定管理費収益」において、厚別公園の指定管理業務期間が終了し、令和5年度から他団体で管理することとなったため。</p> <p>【経常費用・当期正味財産増減額】 上記の理由により前年度に比べ支出も減少したが、最低賃金の上昇や物価の高騰により、指定管理における委託費の負担が大幅に増加したため。</p> <p>【資産・負債】 資産においては新規事業の初期投資により、流動資産が減少し固定資産が増加した。 負債においては、未払消費税の影響で流動負債が減少し、定年延長による影響で固定負債が増加した。</p>
		当期経常増減額	3,115	▲ 16,651	▲ 19,766 (▲634.5)	
		当期正味財産増減額	▲ 4,296	▲ 23,787	▲ 19,491 (▲453.7)	

NO.	団 体 名	指 標	4年度決算	5 年 度 決 算		5年度決算概要
					対前年度増減(率)	
22	札幌市森林組合	経常収益	71,200	60,844	▲ 10,356 (▲14.5)	<p>【経常収益】 経常収益は、販売事業の減少等により前年比10,356千円減少した。</p> <p>【固定資産】 機械装置の取得等により有形固定資産が増加し、流動資産が減少した。</p> <p>【当期正味財産増減額】 当期正味財産増減額は、6,552千円の減額となった。</p>
		当期経常増減額	616	▲ 6,159	▲ 6,775 (▲1,099.8)	
		当期正味財産増減額	265	▲ 6,287	▲ 6,552 (▲2,472.5)	
23	(一財)札幌下水道公社	経常収益	2,605,496	1,570,529	▲ 1,034,967 (▲39.7)	<p>【経常収益】 経常収益は、アスファルト再生事業及び道路再生資材販売事業の終了により1,097,570千円の減及び下水道科学館運営管理事業の請負費が6,380千円の減となったこと等により前年比1,034,968千円の減となった。</p> <p>【経常費用】 経常費用は、事業費の請負費が25,048千円の増、動力費が13,568千円の増となったが、道路再生資材購入費の1,056,399千円の減及び修繕費が36,874千円の減額になったこと等により前年比1,037,011千円の減となった。</p> <p>【資産・負債】 資産は、流動資産の現金預金の減等により60,198千円の減となった。また負債については未払金の減等により63,697千円の減となった。</p>
		当期経常増減額	13,988	16,032	2,044 (14.6)	
		当期正味財産増減額	7,373	3,499	▲ 3,874 (▲52.5)	
24	(株)札幌副都心開発公社	売上高	4,039,529	4,215,650	176,121 (4.4)	<p>【売上高・営業費用・営業利益・営業外収益・当期純利益】 収入面ではSC事業、ホテル事業、その他賃貸事業の各部門において増収、売上原価や販管費がフロアリニューアルの実施に伴い増加しものの、電力支援金等による営業外収益の増加もあり、増収増益決算となった。</p> <p>【資産・負債・純資産・借入金残高】 長期性預金積立の増加に伴い固定資産が増加、I 街区前受地代受領に伴い固定負債が増加したことから、全体として増加している。</p>
		営業利益	215,134	237,944	22,810 (10.6)	
		当期純利益	120,279	223,954	103,675 (86.2)	

NO.	団 体 名	指 標	4年度決算	5 年 度 決 算		5年度決算概要
					対前年度増減(率)	
25	(一財)札幌市住宅管理公社	経常収益	5,701,370	5,750,982	49,612 (0.9)	<p>【経常収益・経常費用】 施設保全事業の委託額増加により、経常収益及び費用が増加した。</p> <p>【流動資産・流動負債】 施設保全事業の未払金（未払工事費等）増加により、流動資産及び流動負債が増加した。</p>
		当期経常増減額	33,652	32,005	▲ 1,647 (▲4.9)	
		当期正味財産増減額	32,221	30,538	▲ 1,683 (▲5.2)	
26	(一財)札幌市交通事業振興公社	経常収益	5,789,671	5,984,819	195,148 (3.4)	<p>【経常収益】 軌道運送事業における乗車料収入で120,093千円、広告料収入で11,552千円など、軌道運送事業全体で約1億5,500万円増収したため。 (R4年度軌道事業収益：1,926,465千円、R5年度軌道事業収益：2,081,604千円)</p> <p>【経常費用】 札幌市に支払う施設使用料が増加したため。 (R4年度施設使用料：737,933千円、R5年度施設使用料：808,334千円)</p>
		当期経常増減額	▲ 6,005	32,467	38,472 (640.7)	
		当期正味財産増減額	13,636	20,796	7,160 (52.5)	
27	(一財)さっぽろ水道サービス協会	経常収益	1,690,553	1,817,504	126,951 (7.5)	<p>【経常収益】 令和5年度は、労務単価が上昇したことに伴い、札幌市水道局との業務委託契約の受託料が増加したこと等により、経常収益が令和4年度比で126百万円の増収となった。</p> <p>【経常費用】 経常費用のうち人件費については、人材の確保・育成を強化するため、総合職である第2種職員を増員させたこと、また、積極的に有期雇用職員から正職員への転換を図ったこと等により、令和4年度比で47百万円の増額となった。</p> <p>【流動資産】 当期正味財産増減額がプラスとなり、預金等が増加したことから、流動資産全体が944百万円となり、令和4年度比で124百万円の増額となった。</p>
		当期経常増減額	76,178	135,662	59,484 (78.1)	
		当期正味財産増減額	46,273	87,740	41,467 (89.6)	

NO.	団 体 名	指 標	4年度決算	5 年 度 決 算		5年度決算概要
					対前年度増減(率)	
28	(公財)札幌市防災協会	経常収益	176,879	169,915	▲ 6,964 (▲3.9)	<p>【経常収益】 防火管理者等の講習に関する事業は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで増となったが、応急手当普及啓発事業を受託できなかったことにより市委託料が大きく減り、経常収益が減となった。</p> <p>【経常費用】 組織体制の強化のため、プロパー職員3名を採用したことにより人件費が増加し、経常費用が増となった。</p> <p>【正味財産】 委託収入の減、人件費の増により、正味財産は▲8,300千円余りの減となった。</p>
		当期経常増減額	5,989	▲ 6,990	▲ 12,979 (▲216.7)	
		当期正味財産増減額	5,161	▲ 8,328	▲ 13,489 (▲261.4)	
29	(公財)札幌市生涯学習振興財団	経常収益	887,011	828,967	▲ 58,044 (▲6.5)	<p>【当期経常増減額・正味財産】 青少年科学館の再整備による休館のため、指定管理費などの収入が減少した結果、経常収益は前年比で58,044千円の減少。一方、人件費や物価高騰の影響による委託費の増加により、経常経費は前年比で18,776千円増加。その結果、正味財産は前年比で53,145千円減少した。</p> <p>【負債】 未払金の増加により、流動負債が前年比で52,566千円増加し、負債全体で50,588千円増加した。</p>
		当期経常増減額	23,754	▲ 53,066	▲ 76,820 (▲323.4)	
		当期正味財産増減額	23,125	▲ 53,145	▲ 76,270 (▲329.8)	
30	(公財)札幌市学校給食会	経常収益	4,207,645	8,664,915	4,457,270 (105.9)	<p>【経常収益・経常費用】 経常収益及び経常費用の対前年比増は、北海道学校給食会が扱う主食（米飯、パン、麺類等）について、令和5年度から当会経理を経由して調達することとなったことが主たる要因である。</p> <p>【流動資産】 流動資産の対前年比大幅増は、令和5年度からの学校給食費公会計化により、貸借対照表作成時点（年度末）において、給食物資代金（事業費）が概算払で受領済だったところ、支払期日が4月であったことにより、一時的に未払いとなったため、実質的な増減はない。</p>
		当期経常増減額	▲ 1,993	1,409	3,402 (170.7)	
		当期正味財産増減額	▲ 1,057	1,409	2,466 (233.3)	